

第3回 鶴嶺西地区 防災“も”まちづくりワークショップ開催概要

1 開催概要

日 時	令和6年2月18日(日) 13:30~16:30
場 所	鶴嶺西コミュニティセンター2階会議室2, 3, 4
参加者数	約25名

2 プログラム

① 開会のあいさつ	鶴嶺西地区民生委員児童委員協議会	会長	はまだ もりあつ 濱田 盛厚
② 第3回ワークショップの開催について	NPO法人 日本都市計画家協会		うちやま すずむ 内山 征
③ グループワーク	アクションプログラムの作成 防災“も”まちづくりマップの作成		
④ 発表			
⑤ 全3回ワークショップを通したまとめ	鶴嶺西地区まちづくり協議会	会長	きじま よしお 貴島 義夫
⑥ 市の取組	茅ヶ崎市役所都市部	部長	ごとう ひろふみ 後藤 祐史
⑦ 全体講評	東京大学生産技術研究所	教授	かとう たかあき 加藤 孝明
⑧ 閉会のあいさつ	鶴嶺西地区社会福祉協議会	会長	ほりうち ひでゆき 堀内 秀行

3 ワークショップ内容

◆開催のあいさつ

全3回目のワークショップの最終回になります。
防災“も”まちづくりは、日常の活動を防災につなげるものです。日頃の我々が行っているコミュニティ活動においても多様な効果があり、防災もその効果の1つとなっています。

そして、今日のプログラムでは、地域が主体となって、住民が取り組むことを具体化していきます。これまでの2回のワークショップで話し合った内容が、次年度以降の具体的な活動となるよう、活発な意見交換をお願いします。



鶴嶺西地区民生委員
児童委員協議会会長
はまだ もりあつ
濱田 盛厚 氏

◆第3回ワークショップの内容

今回のワークショップは、これまで2回のワークショップを通じて話し合ったことを踏まえて、とりまとめを行う回です。

グループワークは、前半、後半にわけて行い、その後、発表することにより、各グループの考えを、参加者全員で共有します。

【前半：アクションプランの作成】

第1回、第2回のワークショップで話し合った、日ごろの活動の中にある課題の解決と併せて、地域の防災力を強化する工夫について再度話し合い、今後地域で進めていくべき活動をアクションプランにまとめました。プランでは、その活動の効果、実施主体、時期を整理し、活動の中に込められた、「防災“も”」の効果についても整理しました。

【後半：防災“も”まちづくりマップの作成】

後半では、まずグループごとに地域のキャッチフレーズについて話し合いました。鶴嶺西地区をどんなまちにしたいか、次年度からの活動が一体感を持ってスタートできるような、また、地区にお住いの方に対するメッセージにもなるようなキャッチフレーズを考えました。

その後、地域のキャッチフレーズ、まちの魅力・資源、まちづくりや防災上の課題。その課題を解決するための活動、活動場所等をまとめた「防災“も”まちづくりマップ」を作成しました。

●グループワークの様子



◆とりまとめる内容

●前半のグループワークでとりまとめる内容

第3回 鶴嶺西地区防災“も”まちづくりワークショップ ワークシート

【グループ 】

【アクションプラン～地域で取り組みたいこと～】

なにを？	どのような？	だれが？	いつ？			さらに？
取組内容	まちづくり上の効果	例)自治会/民児協/地区社協/ まちちから協議会等	短期 R6～	中期 2～3年後	長期 5年後	防災上の効果

●後半のグループワークでとりまとめる内容

第3回 鶴嶺西地区防災“も”まちづくりワークショップ ワークシート

【グループ 】

【まちづくりのキャッチフレーズ】

【グループワークのまとめ】

まちの魅力・資源	
まちづくりの課題	
防災上の課題	

【アクションプラン】

実施団体	取組内容	実施時期 (短・中・長)



実施プログラム	まちづくりの体制

◆グループワークの発表

発表の順番の希望を募り、④、②、③、⑤、①の順番で、グループごとにとりまとめた結果を発表し、加藤教授からコメントをいただきました。

グループ④ キャッチフレーズ：小さなネットワークから絆づくり

まず、キャッチフレーズですが、始めは小さなネットワークでも、そのネットワークを大きくして、絆づくりにつなげていこうという意味が込められています。

アクションプランとしては、この地区は工場が多いので、その特性を活かして工場との連携を進めていきたいと思います。現状、工場で何を製造しているのかも分からないので、まずは、それを把握するために会社訪問を行いたいと思います。

また、歴史資源である馬入の渡しを活用して、地域の魅力づくりをしていきたいです。グループワークでは、まちぢから協議会で歴史勉強会を行うアイデアが出ました。

防災上の課題として、災害弱者の情報共有、自治会ごとに情報管理の方法や基準が異なることが挙げられたので、災害弱者の情報について、災害時に各団体が円滑に共有できるよう、今一度見直しを図っていきたいです。

加藤教授のコメント

歴史から学ぶことは重要です。新しく流入してくる方が多い中、その子どもは、鶴嶺西地区がふるさとになります。地域の歴史を学びながら、地域への愛着を育み、防災意識を持ってもらうことが有効です。

グループ② キャッチフレーズ：つながろう、あなたが主役のまちづくり

まちの魅力として、地域で活動している方同士で顔の見える関係性ができていることが挙げられます。各団体間の関係も良好です。

一方で、まちづくりの課題として、活動の担い手不足が挙げられます。担い手がないので一人がたくさん役割を担っています。その負担を少しでも軽減できるよう、自分たちだけで考えるのではなく、他の団体へ声かけをして、知恵を借りることができるようにしたいと思います。

防災の課題としては、居住者のつながりや顔の見える関係性が十分でないことが挙げられました。特に若い世代との交流が少なくなっているので、自治会などで親子連れや若い世代が参加できるイベントを開催したいです。



具体的には、焚火をやって、それを消火器で消すなど、親子連れや若い世代の「やりたい」が実現できる場づくりや参加型のイベントを実現したいと思っています。

また、地域の情報や防災情報の周知徹底を図るために、読みたくなるような回覧板の工夫をしていきたいと思っています。

加藤教授のコメント

回覧板に合わせて、LINEなどのツールを使っても良いかもしれません。

私も仕事が忙しく、住んでいる地域では、日常の活動の担い手にはなれていません。しかしながら、いざというときには動けるようにしたいと思っています。このいざというときに動いてくれる人が、この地域の中にも居ると思います。災害に備えて、そのような方を探しておくことも重要かと思いました。

グループ③
キャッチフレーズ

： ONE 鶴嶺西地区～住民連携、幅広い世代で同じ方向を向こう!!

アクションプランの第一ステップとして、団体間の情報共有を進めたいと思います。一つの団体ではできないことも複数の団体で連携すれば解決できることもあるからです。

次に、地域の方々を巻き込んで、第2回ワークショップのような「まちあるき」を行い、防災マップづくりを行いたいです。まちあるきは地域のことを学ぶ良いきっかけになります。

まちあるきでは、鶴嶺西コミセンを中心にしてオリエンテーリングをしながら、楽しく地域を知ることができる取り組みにしたいです。

最後に、子ども食堂、スポーツ団体との連携によるイベントを行いたいです。まちづくりの課題として、幅広い世代のコミュニケーションが足りていないことが挙げられていたので、幅広い世代が参加できるイベントを開催したいです。具体的には、子ども向けに、つくし取りなど、野原にあるものを食べるイベント等が楽しいのではないかと盛り上がりました。

防災上の課題では、住民の防災意識が高くないことが話題になり、そういった住民に興味をもってもらうためにも、防災を目的としない楽しいイベントを開催することが必要です。自然の中で食べられるものを探して、食べてみるようなイベントができれば楽しいと思います。

加藤教授のコメント

アクションプランにリアリティがあると感じました。全ての人にとって必要なものは“食”です。これまでは災害時の食について、栄養のことまで気が回っていませんでしたが、近年、災害を乗り越えるためには「コミュニケーションと食」が大切で、食においては、栄養が重要であると考えが変わってきています。



グループ⑤ キャッチフレーズ : まかせて「安心」まちぢから

キャッチフレーズは他力本願なキャッチフレーズになってしまいました。

まちの資源・魅力は、きれいな富士山が見えることや、小出川沿いに咲く桜です。この地域は、素晴らしい環境があります。一方で、まちづくりの課題は、高齢者が多いこと、新規居住者が自治会に加入しないことが挙げられます。

この地区は水害時の避難に課題を抱えており、独居の高齢者や障がい者が取り残されてしまう危険があります。それを防ぐためには、アクションプランでも挙げていますが、まちぢから協議会が中心となり、円滑な避難体制を築く必要があると思います。近隣住民との関わりも重要で、独居の高齢者や障がい者が近隣住民と顔見知りになれるようなイベントなどを実施していきたいです。

新規居住者についても自治会に加入したいと思えるようなイベントを開催するなどして加入者を増やしていきたいと思います。

加藤教授のコメント

新規居住者が自治会に加入しないことは、他地域でも起こっています。何かメリットがないと加入する人は増えません。水害に対する課題に対してしっかりと備え、自治会に加入することにより安心感を得られるといったことをメリットにするといいと思います。

グループ① キャッチフレーズ : 訓練すれば、助かる！

アクションプランとして、まちぢから協議会は、今回のワークショップの結果を、広く地域に伝えていきたいと思っています。特に伝えたいのが防災訓練の重要性です。いざという時、自分たちの身は自分たちで守るしかありません。そのため、自治会では、消火ホースなどの使い方の訓練等を進めています。避難訓練についても自治会だけではなく、多様な団体に声をかけ、避難訓練を実施していきたいと思っています。合わせて、避難所の運営訓練も実施したいです。避難行動要支援者についても、自治会と民生委員の連携をさらに強化して、要支援者を災害時に助けることができる体制を築いていきたいです。

このようなことから、キャッチフレーズは、「訓練すれば、助かる」としました。

加藤教授のコメント

要支援者の名簿をつくった後、いざというときの動き方のイメージができていない地域が多いです。鶴嶺西地区では、一人ひとりの状況を把握し、ランク付けをしている自治会があると伺っています。自分事として取り組んでいると思います。訓練等でさらに充実させてください。



◆全3回ワークショップを通したまとめ

最終回のワークショップの発表が終わりました。各グループの考えが概ね一緒であることがわかりました。

これからどう進めていくかが重要になりますが、これは各部会、各団体で考えていく必要があります。団体間で連携できる部分は連携して進められるように取り組んでいきたいです。

自治会の加入者を増やすことも大切な活動です。コミュニティの維持や防災活動のためにも、自治会への加入促進を、引き続き進めていきます。

さらには、みんなが集う場づくりが求められていることが明確になりました。防災という視点は消極的になりがちなので、来年度に向けて、楽しい活動の場をつくっていききたいと思います。



鶴嶺西地区まちづくり協議会
会長 貴島 義夫 氏

◆市の取組み

防災“も”まちづくりワークショップは、地域における防災力を強化する取り組みとして平成 21 年度から実施してきました。今回、鶴嶺西地区でも皆様のご協力のもと、無事に開催することができました。厚く御礼申し上げます。

市の役割としては、防災に関する情報を市民に広く提供することや、他地区の取組みを横断的にお知らせすることが挙げられます。

例えば、令和元年にワークショップを行った小和田地区では、ワークショップをきっかけに、道に愛称を付け、日ごろのコミュニケーションの活性化や災害発生時の円滑な避難に繋げるような取り組みを行っています。鶴嶺西地区も、このワークショップをきっかけに、次年度以降、アクションプランでまとめたような具体的な活動を進めていかれると思います。市もその活動をできる限り支援し、市内各地に広げていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



茅ヶ崎市役所 都市部長
後藤 祐史 氏

◆加藤教授の全体講評

昨年度、防災“も”まちづくりワークショップに取り組んだ茅ヶ崎地区では、この1月にシンポジウムを開催しました。昨年度の成果を踏まえて、地域と商業者や企業の連携が進んでいます。

鶴嶺西地区でも、本日の成果を活かして、シンポジウム開催に向けた更なる内容の深堀りをお願いしたいと思います。

マンションへの避難の話がありましたが、日ごろから関係性をつくっておくこと、マンション管理をしっかりとしておくことが重要です。

市でも、活動を支援しているということですので、本日の発表に合った団体同士の連携に加え、行政との連携についても検討しながら、防災“も”まちづくりを進めていってください。



東京大学生産技術研究所
かとう たかあき
加藤 孝明 教授

◆閉会のあいさつ

防災“も”まちづくりワークショップは、講演会とは異なり、住民が集まり、お互いに意見を出し合うワークショップでした。このようなことをやるとつい井戸端会議のようになり、意見がまとまらないで終わってしまうことが多くなります。しかしながら、今回は、貴重な意見が出され、そして、グループごとにアクションプランや防災“も”まちづくりマップをまとめることができました。これは、市の企画やファシリテーターの方の協力が大きかったです。

今回の結果を踏まえて、次年度以降の具体的な活動につなげていければと思います。まずはシンポジウム開催に向けて、今回話し合った内容の深堀りをしていきたいです。



鶴嶺西地区社会福祉協議会会長
ほりうち ひでゆき
堀内 秀行 氏